

2022 年 12 月 16 日

フローズンマザー物流センターの待機時間削減に向けた取り組み

パレチゼーション推進による高効率化で「物流構造改革表彰」を受賞

株式会社日本アクセス（所在地：東京都品川区、代表取締役社長：佐々木 淳一、以下日本アクセス）はフローズン業界の課題解決に向けて、横浜冷凍株式会社（所在地：神奈川県横浜市、代表取締役社長：松原 弘幸、以下横浜冷凍）と取り組んでいる「フローズンマザー物流センター」の取り組みが評価され、経済産業省および国土交通省が発表した「物流パートナーシップ優良事業者表彰」において『物流構造改革表彰』を受賞しました。

■物流パートナーシップ優良事業者表彰について

経済産業省および国土交通省は、物流分野における環境負荷の低減や物流の生産性向上などにより、持続可能な物流体系の構築に顕著な功績があった事業者に対し、「物流パートナーシップ優良事業者表彰」を実施。今年度は経済産業省に応募のあった取り組みの中から、経済産業大臣表彰 1 件、物流 D X ・標準化表彰 1 件、物流構造改革表彰 1 件、強靱・持続可能表彰 1 件、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞 1 件の表彰が決定しました。表彰式は、12 月 22 日（木）に砂防会館別館にて開催されます。

経産省 H P : <https://www.meti.go.jp/press/2022/12/20221208003/20221208003.html>

■フローズン業界の課題解決に向けて『パレチゼーションによる冷凍物流の高効率化を推進』

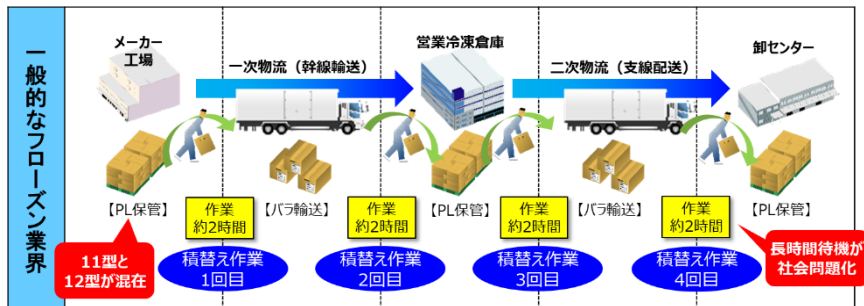
フローズン業界では手荷役による長時間作業が一般化しており、長時間納品に起因した納品車両の長時間待機が課題となっています。日本アクセスではそれら課題解決にむけて一貫パレチゼーションを推進。

取り組みの拠点としてフローズンマザー物流センターを 2022 年 1 月に横浜冷凍と関東エリアに新設し、エリア内の仕入機能を集約。生産・販売計画を共有し、車両単位・パレット単位での発注を行い一貫パレチゼーションを促すことで、納品業務の効率化とそれに伴う CO₂削減を実現しています。今後は第 8 次中期経営計画中に全国 6 エリアへの展開を予定しており、これらをプラットフォームとしたフローズン業界全体での一貫パレチゼーションを実現させていく計画です。



フローズンマザー物流センター取り組み内容

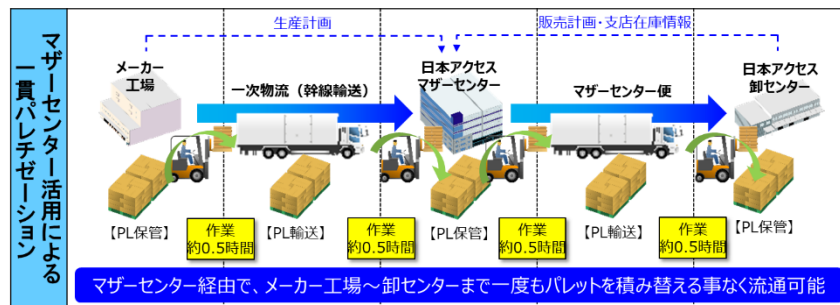
【実施前】



- ・保管時にはパレットが使用されるものの、輸配送における積み降ろしの度にバラ積みバラ降ろしの長時間手荷役をドライバーが実施。

- ・特に多数のメーカー納品が集中する卸センターでは荷降ろし作業でバースが占有され、納品車両の長時間待機が問題。

【実施後】



- ・メーカーの生産計画に合わせて、マザーセンターからメーカーへの発注単位を車両単位とすることで、メーカーにとって従来の営業倉庫への納品と同等の物流効率となるように設計。
- ・メーカーは従来の「営業倉庫・卸センター間」の物流費相当額をマザーセンター運営費として負担し、物流コストを維持したまま一貫パレチゼーションを実現。
- ・マザーセンターから卸センターへの出荷量が一定数を占めることで、メーカー営業倉庫から卸センターへの納品台数削減にも寄与。結果として、卸センターでの手降ろし納品の割合が減少し、待機時間削減が実現。

【効果】

- ◆CO₂削減量：35.7t-CO₂／年（10%削減）
- ◆メーカー納品便待機時間削減：9,184 時間／年削減

※上記効果はいずれも関東エリアのみの数値

以上